中英香川

第61号

令和６年度　研究テーマ

グローバル社会に求められる英語教育の在り方
－表現力の育成をめざした英語授業の創造－

香川県中学校教育研究会英語部会

目　次

【会長挨拶】

今、英語科が抱える課題
香川県中学校教育研究会英語部会　会長　小川　正晃　・・・・・・・・・・・・・ 1

【香川県教育委員会より】

言語活動及び言語活動を通した指導の充実に向けて
香川県教育委員会事務局義務教育課　主任指導主事　眞鍋　容子　・・・・・・・ 2～3

【研究会・研修会】

・ 令和６年度　香川県中学校教育研究会英語部会夏季研修会　・・・・・・・・・ 4～5

【各支部研究発表】

・ 小豆支部英語部会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6～7
・ さぬき・東かがわ支部英語部会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8～9
・ 高松支部英語部会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10～11
・ 坂出・綾歌支部英語部会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12～13
・ 丸亀支部英語部会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14～15
・ 仲多度・善通寺支部英語部会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16～17
・ 三豊・観音寺支部英語部会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18～19

【県下英語教育の動き】

・ 令和６年度　各支部事業報告　・・・・・・・・・・ 20～26
・ 令和６年度　香川県中学校教育研究会英語部会事業概要　・・・・・・・・・・ 27

今、英語科が抱える課題

香川県中学校教育研究会
英語部会　会長　小川 正晃

香川県中学校教育研究会英語部会の会員の皆様、日頃より本研究会に対して、多大なご理解、ご協力を賜り、心よりお礼申し上げます。

今年度も皆様のおかげで、様々な活動を実施でき、成果をあげられたことに喜びを感じます。特に、7月 30 日、丸亀市綾歌総合文化会館アイレックスで開催された夏季研修会では、大阪城南女子短期大学の学長であられる菅正隆先生をお招きし、「今求められる英語教育 ～表現力育成のための授業構築の在り方～」というテーマで講演をいただくことができました。新採教員の大量採用により 20 代の先生方が大変多くなり、教職員の年齢構成がかなり低くなった昨今、熟練教員の知識・技能の継承がどこの学校でも課題となっています。そのような中、生徒がワクワクする授業、知的好奇心を揺さぶられる授業など、「『楽しい』と思える授業づくり」への大切なヒントを菅先生からいただき、それを県下多数の先生方で共有できたことは、今後の大きな財産になったのではないかと思います。

私見になりますが、今、中学校英語科が抱えている課題に、次の２つがあるように感じています。一つは「表現力の育成」、もう一つは「ＩＣＴの効果的な活用」です。それぞれについて、少し深堀してみます。

■表現力の育成■

今年度の教科書採択により、来年度から教科書が変わります。県内は２社（東京書籍：NEW HORIZON・開隆堂：SUNSHINE）が選ばれましたが、２社ともに「表現力・発信力」の育成に重きを置いた構成になっているようです。

「表現・発信」にフォーカスするには、情報をインプット（Listening・Reading）し、自分の中で「思考」し「判断」して、「表現」としてアウトプット（Speaking・Writing）するという流れが必然です。その過程では４技能がそれぞれ統合された形で繰り返し用いられ、総合的な英語力の育成につながります。評価における「思考・判断・表現」の観点が重要視されるのもうなずけます。さらに、「表現・発信」に向けた活動は、深い「思考」を求められることが多いため、生徒の「主体的」な学びにもつながっていきます。

しかし、そこで問題になるのが、「表現・発信」の時間を授業の中でどれほど生み出せるかということです。新出語句の練習をし、教科書の本文を訳し、本読みをする。このような活動に今までのように時間をかけると、「表現・発信」の時間が確保できないということはないでしょうか。もしあるとするならば、どれだけインプットの時間を削減し、アウトプットの時間を生み出すか・・・授業の在り方を根本から見直すことが求められます。アウトプットの作業がインプットの作業を兼ねることができないか（本文の訳を先に渡してしまう等）、様々な検討の余地がありそうです。

■ＩＣＴの効果的な活用■

現在、県内のほとんどの中学生には、英語科のデジタル教科書が一人ひとりのタブレットにインストールされています。それを効果的に活用し、生徒の「個の学び」につなげられているでしょうか。

授業で語句や本文の読みを一通り練習後、タブレットを家庭に持ち帰り、授業での学びを家庭学習につなぐ。家庭学習で個に応じた学びが行われ、その学びをもう一度授業につなげられたら、授業における「表現・発信」の時間を、今まで以上に生み出せるのではないか・・・そんな期待をもっています。また、このような家庭学習は「個別最適な学び」にもつながり、学力に応じた学習への取組が必然となされるように思います。

当然、家庭学習前の練習の質と取組方への的確なアドバイス、そして、家庭学習後の個別の評価と次への課題の与え方はカギとなります。

以上、２つの課題を述べましたが、これらの課題に立ち向かうことが、「グローバル社会に求められる英語教育の在り方 ～表現力の育成をめざした英語教育の創造～」という県の研究テーマに、迫っていくことになるのではないかと考えます。

今後も香川の英語教育充実に向けて、会員の皆様と情報を共有し議論を重ねながら、研究や授業実践に邁進できたらと願います。

結びに、「中英香川 No. 61」の発刊に当たり、執筆、編集に携わっていただいた皆様方に心より感謝申し上げます。

言語活動及び言語活動を通した指導の充実に向けて

香川県教育委員会事務局義務教育課　主任指導主事　眞鍋　容子

1　はじめに

令和５年６月 16 日に閣議決定された「第４期教育振興基本計画」では、「持続可能な社会の創り手の育成」と「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」という２つのコンセプトが掲げられ、次の５つの基本的な方針が示されました。

1　グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成
2　誰一人取り残されず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育の推進
3　地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進
4　教育デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進
5　計画の実効性確保のための基盤整備・対話

これらの基本方針のもと、16 の目標と基本施策、指標が示されています。英語教育との関連性が特に高いものとしては、次のような項目（抜粋）があります。

目　標４	グローバル社会における人材育成
基本施策	外国語教育の充実
指　　標	英語力について、中学校卒業段階で CEFR の A1 レベル相当以上、高等学校卒業段階で CEFR の A2 レベル相当以上を達成した中高生の割合の増加
目　標 11	教育 DX の推進・デジタル人材の育成
基本施策	１人１台端末の活用
指　　標	児童生徒一人一人の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面での ICT 機器の活用頻度の増加

社会の変化やそれによって生じるさまざまな教育的ニーズに対応しつつ、たゆまぬ授業改善を続けることが求められています。

2　言語活動の充実に向けて

授業改善の視点として重視したいのは、「言語活動及び言語活動を通した指導の充実」です。これについては、本年度８月に実施した「教育課程運営改善連絡協議会」の中でも、ご協議をいただきました。

言語活動の充実に向けては、教師が活動の目的や場面、状況等を明確に示すことやそれらを生徒が理解した上で活動に臨むことが不可欠です。

例えば、通常の授業において、地域や世界に対して自分の考えや気持ちなどを英語で発信するような本物体験の場を設定することは、簡単ではないかもしれません。多くの先生方が、そのような豊かな学びが生徒の学習意欲の高まりにつながることを確信しつつも、授業において、頻回で本物のコミュニケーションの場を提供することは困難であると感じているのではないでしょうか。目的や場面、状況等は、生徒がそれらを理解して主体的に活動に取り組むことができるものであれば、決して壮大なものでなくとも、ワークアウトすることが期待できます。

また、言語活動の充実を図る上で、ALT の効果的な参画も重要と言えます。授業への参画機会が少ない場合は、ALT からのメールやビデオレター等を題材とするなど、教室の中に ALT がいなくとも、英語を用いる必然性が生まれるような工夫が必要です。

3　言語活動を通した指導の充実に向けて

言語活動を通した指導の充実に向けては、単元構成の見直しや改善が必要であると考えられます。

例えば、従来のピラミッド型（例：単元末の自己表現に向けて練習を重ねる）単元構成から漆塗り型（単元を通して言語活動を行いながら、よりよい表現を見いだす）単元構成への転換を図ることが有効です。

単元計画の中に言語活動を設定する際、留意したいのは、活動を目的化しないということです。

例えば、「話すこと[発表]」の言語活動を行う場合、生徒が聞き手を意識しながら自己の表現を再考する場面が学習過程に組み込まれているかどうか、が重要です。事実を羅列したような英文を

暗記し、正しく発話することのみに意識を向けてしまうと、活動を通して、自分の英語が相手に伝わる喜び、成就感を得ることは難しいのではないか、と感じます。単元の前半から言語活動を取り入れることで、活動を通して、言語材料の働きに気づいたり、他者の表現を取り入れて自分の表現に磨きをかけたりすることが可能となります。「発表」をゴールとせずに、「発表」のその先にある目標を教師と生徒が共通理解した上で、単元の学習を始めること、そして、学習の過程では、適宜その目標に立ち戻って考える場をもつことが、生徒の主体的な学びを引き出す鍵になると考えられます。

学力向上モデル校や総合授業力リーダーの先生方の授業を参観し、生き生きと学びに向かう生徒の姿を見る度に、コミュニケーションの楽しさや喜びを実感することが、自律した英語学習者を育てる第一歩であるという認識を強くしています。生徒が主体的に活動に取り組むことができるように、活動を通したさまざまな仕掛けや手立ての工夫が求められています。

４　ＩＣＴ等の活用について

ICT 等を活用して、言語活動の充実を図ることも有効であると考えられます。

昨年度、本県では国の実証事業として、「英語教育における１人１台端末活用実証事業」を実施し、県内 12 校、約 1400 名の中学校２年生が実証に参加しました。実証校においては、１人１台端末の活用を通して、音読速度や即興性（AI からの質問に対して発話を始めるまでの時間）の向上等、一定の成果が上げられました。

これまでの一斉授業では、教師が１時間の授業の中で生徒一人一人に丁寧に関わることは困難で、学習内容が高度化するにつれて、英語を苦手とする生徒の意欲低下が加速することも珍しくありませんでした。しかし、AI ツール等をはじめとする ICT 機器は、効果的に活用することで、生徒一人一人の学習の伴走者となることができます。教師の個への関わりを AI が補完するという形をとることができれば、スローラーナーが学習集団から離れてしまうことを回避できるかもしれません。ただ、留意すべき点は、AI ツール等の端末上での練習は、あくまで正確性等を高めるための練習に過ぎないため、実際のコミュニケーションの場を設定することが不可欠です。個別の練習の成果を試すことのできる場をどのようにファシリテートするかは、教師が担う、大切な役割と考えられます。

また、実証校での取組みから、活用場面や目的を教師が見極めることが、生徒の学習意欲や英語力に影響することが分かりました。言語活動を進める過程で、端末上で個別に練習する場面を確保したり、他者の発話や英作文を閲覧する時間を設けたりすることは、表現をブラッシュアップするために大変有効であると考えられます。先進的な取組みを行っている学校では、家庭学習と授業を連動させている事例も見受けられます。家庭において、端末を用いたドリル学習やパターンプラクティス等を進め、授業では活動を中心としていくという形態も今後増えていくのではないかと感じています。

さまざまな機器やデジタルツールは、家事時間の節約など、私たちの生活をより便利で快適なものにしてくれます。英語授業においても、ICT 機器の強みや特性を生かした利活用を進めることで、生徒の個別最適な学び、主体的な学びの実現につながっていくのではないか、と考えています。

５　おわりに

令和６年度から県内全ての市町立中学校の１～３年生を対象として、英検 IBA（２技能試験）を実施しています。英検 IBA は、学習指導要領に準拠した形で生徒の客観的な英語力を測定するために開発されたアセスメントです。本県の生徒の英語力における課題を踏まえて、「読むこと」及び「聞くこと」の２技能試験を実施しています。各学校での実施にあたっては、先生方に多大なる御協力をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。

校内研修や次年度に向けての年間指導計画の見直しにおいて、英検 IBA の団体成績表等をご活用いただき、更なる指導改善を図っていただけますと幸いです。よろしくお願いいたします。

令和６年度　香川県中学校教育研究会英語部会夏季研修会

７月３０日（火），丸亀市綾歌総合文化会館アイレックスにおいて，令和６年度香川県中学校教育研究会英語部会夏季研修会が開催された。本年度は大阪城南女子短期大学の菅学長を招聘し，「今求められる英語教育～表現力育成のための授業構築の在り方～」という演題のもと，ご講演いただいた。

【日程】

１．受付

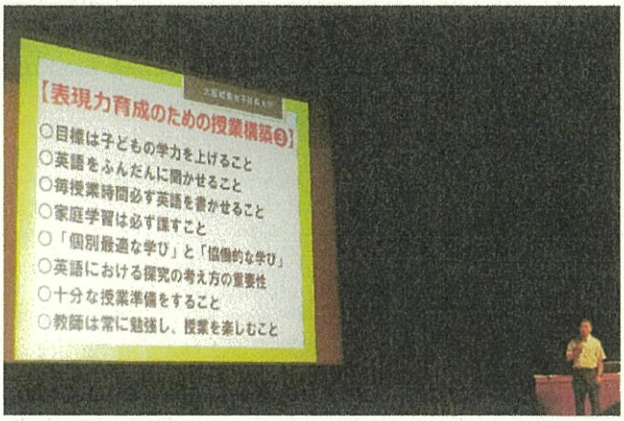
２．開会行事

３．講演・ワークショップ

演題「今求められる英語教育～表現力育成のための授業構築の在り方～」

講師　大阪城南女子短期大学

学長　菅　正隆　先生



４．講評・指導

香川県教育委員会事務局義務教育課

主任指導主事　眞鍋　容子　先生

５．閉会行事

【研修会内容】

講演・ワークショップ

「今求められる英語教育～表現力育成のための授業構築の在り方～」

講師　大阪城南女子短期大学

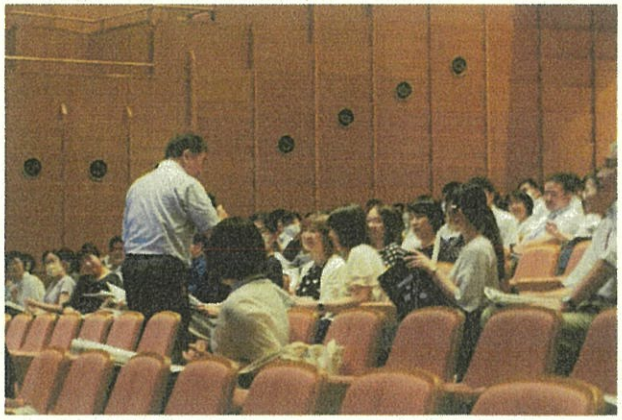
学長　菅　正隆　先生

１．はじめに

「隣に座った先生を何でもいいから１分間ほめよう」という活動から始まった。

・抵抗感をなくすこと

・人間関係が生まれる



２．これからの英語の授業

大阪府教員採用試験や東京大学の試験を例に挙げて解説していただいた。

・「楽しい」と思うには，今までの文化をいったん壊さないといけない。

・今までの日本の「頭がいい」という概念は「記憶力がいい」というものだったが，それが今後根底から変わっていくかもしれない。

３．表現力育成のための授業構築

・教師中心から児童生徒中心

・知識・技能を基に

・思考させる負荷のレベル

・ペア・グループの計算

・児童生徒の役割を計算

・発信の場面

・文法至上主義を捨てる

・日本語を媒介としない

・英語で考えさせる

・言語活動中心の構成にする

・生徒一人一人を常にモニターする

・記憶力のテストは作らない
・目標は子どもの学力を上げること
・英語をふんだんに聞かせること
・毎授業時間必ず英語を書かせること
・家庭学習は必ず課すこと
・「個別最適な学び」と「協働的な学び」
・英語における探求の考え方の重要性
・十分な授業準備をすること
・教師は常に勉強し，授業を楽しむこと

4．これからの指導の在り方
・ICT の活用
・個に応じた指導
・探求する授業

5．必要な考え方
・基礎的・基本的知識・技能定着
・パフォーマンス活動・テスト重視
・カリキュラム・マネジメント充実
・知識・技能の活用場面
・教科書，教室からの脱却

6．個別最適な学びと協働的な学び
○個別最適な学びを成功させる秘訣
・生徒・保護者に個別学習の大切さを理解させる。差別感，区別間を抱かせない。
・生徒の学力を見極め，つまずきどころを把握する。
・適切な教材の提示。同じものでも可能。スピードは生徒に任せる。
・到達目標の提示。
・適宜，進度を把握。ほめながら指示。目標の更なる高度化を図る。
・評価方法の工夫。易から難へ。どのレベルをクリアしたかの見定め。
○協働的な学びを成功させる秘訣
・生徒同士の人間関係の把握
・ペアやグループの組み方に最大の注意を払う
・役割を必ず持たせ，ローテーションを図らせる
・同等な立場の醸成
○個別最適な学びも協働的な学びも評価する。
○個別最適な学びと協働的の一体化

【指導・講評】

香川県教育委員会事務局義務教育課 主任指導主事　眞鍋　容子　先生

【まとめ】

「何でもいいから隣の人をほめよう」「目を見てしっかりほめよう」という活動から始まり，会場は終始和やかな雰囲気であった。大阪城南女子短期大学で学生たちとともに写された写真からも，先生がいかに人間関係を大切にされているかがうかがえた。大阪府の教員採用試験や東京大学の試験問題を例に，日本の今までの英語教育が大きく変わっていきつつあることを，私たち英語科教員にしっかりと意識付けて下さった。また，先生が実際に行われたパフォーマンステストの映像には，流ちょうな英語でしっかりと自己表現する生徒の姿が映っていた。ただ英語を話せばいいわけではなく，明確な評価につながるテストであった。会場でも，隣に座った教員同士で簡単な英会話をしたり，音読をしてお互いに良い点を述べたりするなど，「表現力の育成」のための授業構築に向けて実践的に考えることができた。

＝各支部研究発表＝

「グローバル社会に求められる英語教育の在り方」
～表現力の育成をめざした英語授業の創造～

小豆支部英語部会

1　研究主題について

小豆支部では、「グローバル社会に求められる英語教育の在り方」のテーマのもと、授業研究を進めている。また、小学校の外国語科とのスムーズな接続や高校との連携をどのように進めていくかを考えている。英語で自分を表現する楽しさを生徒に伝えるために授業研究を進めているところである。

「主体的・対話的で深い学び」と表現力の育成をめざした授業改善をはじめ、思考・判断・表現の評価を意識した言語活動や教科書の本文の扱い方など、各校で情報交換をしながら、より効果的な方法を模索しているところである。

2　研究内容

(1)　研究授業

①　日　時　令和６年６月１３日（木）

②　授業者　藤井　悠輔　教諭（土庄中）

③　題　材　Our Project 1 あなたの知らない私
(SUNSHINE ENGLISH COURSE 1)

④　目　標

既習事項や友だちのアドバイスを用いて、まとまりのあるスピーチ原稿を書くことができる。

⑤　授業説明

・自分の伝えたいことをどう英語で表現するかを既習事項から振り返ったり、タブレット端末を用いて調べたりして、しっかり考える時間を設定した。

・伝わりやすいスピーチにするために、どのようなことに気を付けたらよいかをペアやグループで考えさせるようにした。

⑥　授業討議より

・小学校で学習してきたことが中学校１年生の始めから活かされている。

・教師と生徒の人間関係がしっかりとできており、コミュニケーションがとりやすい雰囲気ができている。

・タブレット端末を用いて、色々な表現で英文を書けていた。しかし、翻訳を使うと一年生にとって難しい表現になってしまうことがあった。

・自分の意外な一面を伝えるために、スリーヒントクイズやもっと伝えたいと思う活動を取り入れると、実際に発表するときに役立つ。

・修正した原稿を読む練習をする際に、できていない生徒や質問がある生徒に対応するために、机間指導をどのようにするか工夫する必要がある。

(2)　研究授業

①　日　時　令和６年１１月１９日（火）

②　授業者　森下ひなた　教諭（小豆島中）

③　題　材　Power Up 3 レストランで食事をしよう
(SUNSHINE ENGLISH COURSE 2)

④　目　標

レストランで注文するために、自分の食べたいものやおすすめのメニューについて伝え合うことができる。

⑤　授業説明

・生徒の習熟度が違うので、活動内容の幅をどこまでもたせるかを考えながら、ペアやグループでの言語活動の内容を設定した。

・英語に苦手意識をもっている生徒が多いので、ポイントを書いたワークシートやスキットを用意して、支援に役立てた。

⑥　授業討議より

・ワークシートに工夫があり、全員が参加できるように考えられた授業であった。

・やり取りを通して、自分のよさを認めてもらう機会や友だちのよい点から自分の表現を広げたり、深めたりできていた。
・ワークシートを見ながらのやり取りになっていたので、目を合わせながらできるように、簡単な表現の部分は覚えさえる時間が必要だった。
・実際のやり取りをイメージしやすいようにメニュー表を用いていたので、お店で用いる小道具などでリアルさを再現できてもよかった。
・やり取りの授業では、話すことに力を入れるのか、聞くことに力を入れるのか難しいところがある。また、目の前のテストや入試を考えると表現を覚えるだけであったり、単語を書くことに力を入れたりする授業になってしまう悩みがある。

(3) 研究授業

① 日　時　令和６年１１月１９日（火）
② 授業者　渡邊　友明　教諭（小豆島中）
③ 題　材　PROGRAM 6　Live Life in True Harmony (SUNSHINE ENGLISH COURSE 2)
④ 目　標
　受け身を正しく用い、おすすめの映画を紹介することができる。
⑤ 授業説明
・書くことを意識できるように、パターン練習や口頭練習で新出文法に慣れさせることを意識した。
・おすすめのものを紹介するという形の言語活動を何度も練習させ、英語でもっと紹介したくなるような授業を心掛けた。
⑥ 授業討議より
・文法の復習（be 動詞＋過去分詞）を体を使って覚えるようにしていたので、生徒も覚えやすそうであった。
・どの生徒も授業に参加したと思えるように、導入や口頭練習が工夫されていた。
・過去分詞を覚えやすいように表でまとめてあり、英語が苦手な生徒が英作文のときに活用できていた。
・英作文を作るときに、主語や動詞を押さえるなど声掛けがあればよかった。
・今回の言語活動が Interact の “Do you know this?” という内容から「おすすめの映画」につなげてあった。教科書の内容と関連付けてあり、英作文を書く際に、例文などを参考にできていた。

3　成果と課題

今回の研究授業では、郡内にある中高の教師が集まり、表現力を育成するための言語活動について話し合うことができた。また、英語が苦手な生徒への手立てや工夫を考えて、みんなで英語が取り組める実践を考えることができた。

全国学力・学習状況調査の結果から郡全体に「書くこと」や「話すこと」を苦手とする生徒が多いことがうかがえる。今後も、コミュニケーションをとるための英語教育を目ざし、課題に重点を置き、４技能のバランスを図りながら授業実践を行っていきたい。また、即興で英語のやり取りをしたり、まとまりのある英語を聞かせて内容を考えさせたりするなど、英語を活用しながら習得できるような取り組みも続けていかなければならない。

小豆郡は各校種と連携が比較的取りやすいので、小中高との連携もより一層図りたい。来年度から変わる教科書の指導計画をしっかりと練り、評価を工夫したり、タブレット端末を有効に活用したりしながら、主体的・対話的で深い学びのある学習となる研究をさらに進めていきたい。

＝各支部研究発表＝

「グローバル社会に求められる英語教育の在り方」
― さらなる表現力の育成を目指した英語授業の創造 ―

さぬき・東かがわ支部英語部会

1　研究主題について

さぬき・東かがわ支部では、県の研究主題を受け、「グローバル社会に求められる英語教育の在り方」を研究主題とした。また、３つの柱のうち、「小学校とのつながりを意識した授業構築の工夫」や「互いの考えや気持ちを伝え合う言語活動の工夫」を意識した研究授業や情報交換を行った。

2　研究の経過及び概要

４月 26 日（金）	教科研究会（さぬき南中）	研究主題の設定、研究組織改編 年間研究計画の作成
５月 30 日（木）	研究授業・討議（長尾中）	
９月 12 日（木）	英語弁論大会（大川中）	
９月 13 日（金）	研究授業・討議（引田中）	
１月	さぬき・東かがわ支部英語部会	研究紀要作成、発行

3　研究の内容

（１）　教科研究会　５月３０日（木）長尾中学校

①　研究授業

ア　題材

New Horizon English Course 1

Unit 2　Our New Teacher

イ　授業者

田中　由佳 教諭

ALT　Mitchell Kissack

ウ　本時の目標

・How(What) do you ～?を用いて、普段の行動について尋ねたり、答えたりすることができる。

・ペア活動に積極的に取り組み、互いに学び合うことができる。

②　授業討議

・言語活動では、活動するペアをローテーションさせて、多くのペアと対話練習ができ、生徒同士の学び合いにもなっていた。

・「世界の朝食」を紹介した後、生徒自身の朝食について聞き返していたのがよかった。

・Are/Do/Can you ～? を一度に練習させると、答え方を間違えたまま覚えてしまうリスクがあるので、ワンパターン化してひとつずつ覚えさせることを徹底するとよいだろう。

③　指導・助言

・ビンゴ用の単語を書くスピードが速かった。これは普段から繰り返しやっているからできることであるので、やり続けることが大切である。

・ALT が「世界の朝食」を紹介した時には、生徒がわくわくしながら聞いている様子が伝わってきた。ALT を TT で上手く生かして、「もっと知りたい」や「もっと聞いてみたい」につなげてほしい。

・小学校⇒中学校へのつながりの観点からは、学習指導要領の小⇒中の違いを理解した上で指導を行うようにする。中学校で、小学校の学習内容を振り返る場合は、小学校での指導場面を思い出させるようにする。そのためには、中学校の教員が、小学校での指導場面を知っておく必要がある。

・ICT の活用方法のひとつとして、デジタル教科書を活用した個別学習を授業に取り入れていく工夫をしてほしい。

【ペアで英問英答をする様子】

（2） 教科研究会　9月13日（金）引田中学校

① 研究授業

ア 題材

New Horizon English Course 3

Unit 3 Animals on the Red List

イ 授業者　井上　知佳教諭

ALT　Josha Nares

ウ 本時の目標

日本で絶滅の危機に瀕している動物について、自分の意見や考えを加えて記事を書くことができる。

② 授業討議

・帯活動の 1minute chat は、生徒の身近な題材で、会話が途切れることなく続けられているペアが多く見られた。

・書く活動に、ICT をうまく活用していた。ICT には、生成 AI や翻訳機能もあり、それらをどう活用していくかを考える必要がある。

・6年生に向けて書くという設定が、モチベーションにつながっていた。

③ 指導・助言

ア 本時の授業について

・帯活動で行ったペアの会話では、話そうとする態度がすばらしく、生徒の英語学習への意欲が高く感じられた授業であった。

・記事を書く活動では、レベル別に選べるシートを用意しており、どの生徒も意欲的に書くことができていた。

・生徒の writing が板書に表れると、全体で内容を確認でき、さらによかったのではないか。

イ 表現力の育成について

・表現力は、さまざまな活動で失敗しながら繰り返し行っていく中で、3年生になって到達点が少し見えてくるような、長期的展望で考える必要がある。

・言語活動では、生徒にとって身近な事象を取り入れて、興味をもちやすい活動を設定する。

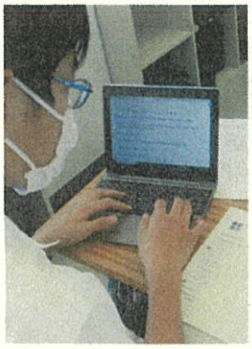
・それぞれの言語活動の意図を示し、生徒の実態より少し高いハードルを設定して、生徒の知的好奇心を刺激する。

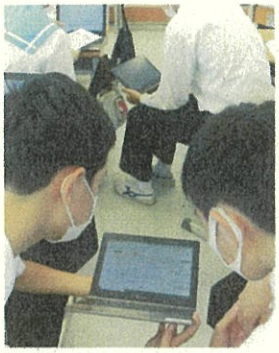
ウ 書くことの指導について

・辞書の使用や教師による直接的な修正と、教師からのつぶやきや生徒同士による間接的な修正を適宜加えて、個の習熟度に応じた指導方法を工夫するようにする。

・定型的な形式を与えて、書くパターンを決めて書かせると、どの生徒も取り組める。

・繰り返し書く指導をすることで、少しずつ書けるようになる。教師が目的をもって指導することが大切である。





【自分の記事をタブレットに打ち、それを読んだ友達からコメントをもらう様子】

4 まとめと今後の課題

今年度は、さらなる表現力の育成を目指して「小学校とのつながりを意識した授業構築の工夫」や「互いの考えや気持ちを伝え合う言語活動の工夫」に重点的に取り組んだ。5月の研究会では、小学校における英語学習状況について、小学校勤務経験のある指導者から講話を受ける機会があり、小学校とのつながりを意識した授業への改善点を探ることができた。また、9月の研究会で、自分のタブレットを使って書く活動を行っていたように、普段から ICT を使って言語活動を行う機会が多くなってきている。そこで、言語活動におけるタブレット端末の活用法やより効果的な指導方法について、来年度以降情報交換や研修を行っていきたいと思う。さらに、ICT 活用方法のひとつとして、デジタル教科書を活用した個別学習を授業に取り入れていくことも考えていく必要があると考える。

＝各支部研究発表＝

「グローバル社会に求められる英語教育の在り方」
－表現力の育成をめざした英語授業の創造－

高松支部英語部会

1　研究主題について

高松支部では県の研究主題を受け、「グローバル社会に求められる英語教育の在り方―表現力の育成をめざした英語授業の創造－」をテーマに、研究を進めた。

2　研究の内容

(1) 研究授業

今年度の学校現場はコロナ前のように様々な研修が行われる状況に戻った。そのため各中学校では、学校行事の復活や各種研修が増加した。そのため高松支部では一斉の提案授業を設定することが難しくなった。そこで今年度は、南ブロックにおいて近隣の学校を中心に参観者を募り、授業を参観する形で行った。授業者は支部内での推薦と日ごろ熱心に授業研修に取り組まれている先生に申し出ていただいた。

●提案授業

① 日　時：令和６年１１月２０日（水）

② 場　所：高松市立龍雲中学校

③ 授業者：久保　孝彰　教諭

④ 題　材：３年　Unit 5 A Legacy for Peace

⑤ 授業改善の視点

・分かりやすい要約にするために、キーワードや場面に優先順位を付ける。

・リテリング活動のポイントに沿って課題を見つけさせるために、生徒のリテリング活動をタブレットＰＣで撮影し視聴させる。

⑥ 本時の目標

ガンディーについて書かれた英文を読み、その内容について自分の考えを交えて伝えることができる。

⑦ 授業を終えての感想

・リテリング活動はやってみたいと思ってもなかなか取り入れるのが難しいと勝手に思っていたが、久保先生のやり方を拝見し、自分も取り入れてみたいと思った。

・普段から取り組んでいるため、生徒も抵抗なく活動していることに感心した。

⑧ 本時の学習指導

第３学年８組　英語科学習指導案

指導者　久保　孝彰

1　日時・場所　令和６年11月20日（水）第６校時　３年８組

2　題材名　Unit 5 A Legacy for Peace

3　授業改善の視点

・分かりやすい要約にするために、キーワードや場面に優先順位を付ける。

・リテリング活動のポイントに沿って課題を見つけさせるために、生徒のリテリング活動をタブレットPCで撮影し、視聴させる。

4　本時の学習指導

（1）ガンディーについて書かれた英文を読み、その内容について自分の考えを交えて伝えることができる。

（2）学習指導過程

学習内容および学習活動	予想される生徒の反応	指導上の留意点および支援
1　単元の学びの確認をする。	・ガンディーについて学んだな	・単元の内容を想起させるために、教科書の扉絵を確認する。
ガンディーについての英文をまとめ、内容を伝えよう。		
2　リテリング活動で活用する英文中のキーワードを確認する。	・Gandhi, respected, non-violence, Indian, independence, leaders discrimination がキーワードになるな。	・既習内容である教科書の本文の要点を整理させるために、生徒が本文を読み、キーワードを確認する。
3　リテリングの構成を考える。 (1)キーワードに優先順位を付ける。 (2)場面の優先順位を付ける。	・ガンディーについて説明するために必要な単語はどれだろうか。 ・正しく伝えたいな。	・構成を考えやすくするために、キーワードに優先順位を付けさせる。 ・生徒がリテリング活動で本文内容を伝えやすくさせるために、キーワードを関連させる。
4　ペアでリテリング活動をする。 (1)ペアで発表をする。 (2)ペアにアドバイスをする。	・要点を歴史の流れに沿って話してみようかな。 ・"Gandhi is the person who ～."から話しはじめると分かりやすいな。 ・文法に誤りがあるな。 ・要点がしぼれていて分かりやすかった。	・自分のリテリング活動を再確認するために、発表場面を個々に録画する。 ・アドバイスしやすくするために、相互評価のポイントを示しておく。 ・リテリング活動への参加が難しい生徒には、黒板のキーワードをつなげてみるようにアドバイスする。 ・ペアのアドバイスをもとに自分の動画を確認させる。
5　Retell 活動のポイントを共有する。 (1)ペアの発表を聞いて気づいたことを発表する。 (2)伝える内容を再構成する。	・キーワードを表現するスライドがあると分かりやすくなるな。 ・他の人のよいところを真似してみようかな。	・学級全体の理解を促すために、相手に伝えやすくなるポイントを板書で提示する。 ・相手により伝わりやすくするために、ペアや学級からのアドバイスをもとに内容を再構成させる。
6　再度ペアでリテリング活動をする。	・前のリテリング活動よりも上手く伝えることができた。	・改善点を踏まえて再度リテリング活動をさせる。
6　本時の振り返りをする。	・リテリング活動のテストのために練習していこう。	・本時の課題を明確にするために振り返りをする。

（4）評価

自分のリテリング活動を振り返り、友だちのリテリングを参考にしながら、要点をしぼったり、既習の表現を使ったりしてリテリング活動をすることができたか。

(2) 意見交換

高松支部の英語教員の人数は、他の支部に比べても多い。一斉に集まるとなると場所や時間の設定も難しい。しかし、どの英語教員もより良い授業づくりと実践を願っている。今年度は次年度に向けて研究組織や研究推進の在り方を見直し、意見交換を行うことにした。

そこで、主任役員研修会を通して各校へ研修の持ち方に関するアンケートを依頼し、各校からの意見を集約した。次年度に向けた組織や研究授業、授業参観についての貴重な意見を集約することができた。先生方が「研修をもっと受

けたい。」「英語の授業づくりで学びたい」と感じていることは、以下のようなことであった。（アンケートの一部）

【どのような研修を受けたいか】
・帯活動について
・ＩＣＴを使った活動や活用の仕方
・評価に関して（特に主体的な学びについて）
・低学力の生徒への支援活動について
・毎時間の自己評価のやり方について
・リテリング活動に向けて、それまでにどのように取り組むか
・自主学習の手だてや工夫
・個別的な学びと協働的な学びの一体化の具体について

今後はこれらの意見を元に、夏季研修会や主任役員研修会などで研修する内容を精選し、実施していきたいと考えている。

(3) 指導・講話

●高松市教委　篠原指導主事による講話

① 日　時：令和６年１１月２６日（火）
　　第４回主任役員研修会にて

② 場　所：高松市立香東中学校

③ テーマ：評価について

④ 感　想：

篠原指導主事から「これからの指導と評価」という観点で講話をしていただける機会を得た。具体的な例を挙げていただき、評価に対する理解を深めることができた。

主体的に学習に取り組む態度の評価に関する考え方

①外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている状況を評価する。

②「話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕」】【書くこと】
目的や場面、状況等に応じて、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、話したり書いたりして表現したり伝えあったりしようとしている状況を評価する。

③【「聞くこと」「読むこと」】
日常的な話題や社会的な話題について話されたり書かれたりする文章等を聞いたり読んだりして、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて必要な情報や概念、要点などを捉えようとしている状況を評価する。

④言語活動への取組に関して見通しを立てたり振り返ったりして自らの学習を自覚的に捉えている状況についても、年間を通じて評価する。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価

各教科等の学習内容に関心をもつこと（従前の「関心・意欲・態度」）

よりよく学ぼうとする意欲をもって学習に取り組む態度

「主体的に学習に取り組む態度」として強調するもの

２つの側面で評価
① 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面
② ①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 p.22

「主体的に学習に取り組む態度」の評価

自らの学習を調整しようとする側面とは

生徒が自ら学習の目標を持ち、進め方を見直しながら学習を進め、その過程を評価して新たな学習につなげるといった、学習に関する自己調整を行いながら、粘り強く知識・技能を獲得したり、思考・判断・表現しようとしたりしているかどうかということ

文部科学省ホームページ 児童生徒の学習評価の在り方について

「自己調整」を図ることができるようにするための指導

単元

←学習の開始時点：以下の視点から振り返りをさせる。
・視点①目標設定
これからの学習で、さらにできるようになりたいことは何ですか。
・視点②目標達成のための工夫
目標を達成するために、何に努力したり意識したりすればよいですか。

←学習の途中段階：以下の指導を行う。
・振り返りをペア・全体等で読み合い、目標達成のための工夫について学び合わせる。
・漠然とする目標しかもてない生徒の変容を促す。
・生徒同士が、言語活動で自己目標についてアドバイスし合う機会をもつ。

←学習の終了及び学期末：上記の視点他、以下の視点から振り返りをさせる。
・視点①変容の自覚　これまでの学習でできるようになってきたことは何ですか。
・視点②変容の理由　なぜできるようになったと思いますか。

「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料　中学校　外国語　p.81」

「主体的に学習に取り組む態度」の評価

評価時期の考え方 → 単元終末や学期末等で行うパフォーマンステスト等が基本となる。

単元の１時間目に単元の学習の意欲を高まる指導を行い、意欲が高まったからといって、「主体的に学習に取り組む態度」が育まれたと評価することは適切ではない。

「主体的に学習に取り組む態度」は、言語活動に取り組む中で「知識及び技能」並びに「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力を一体的に育成する過程を通して育成されることに鑑み、一定の学習を経たのち（単元終末や学期末等）に評価する。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 p.80

(4) 高松地区英語弁論大会

昨年と同様、入場制限なしの実施となり北ブロック・南ブロックとも通常どおり開催した。保護者の参加数制限を設けなかったため、多くの保護者が参観した。

3　まとめと今後の課題

校務多忙な中でも、多くの先生方が様々な指導方法や授業づくりについて学びたいという意欲をもっている。県の夏季研修会では、英語教育の先端を邁進している先生に大いに刺激を受けた。ICT 活用についても、研修を深めたいと考えている。

次年度は、さらに多くの先生方が参加できるよう、ハイブリッドでの研修や実践発表、意見交換などの場を工夫したいと考えている。

＝各支部研究発表＝

グローバル社会に求められる英語教育の在り方
―さらなる表現力の育成を目指した英語授業の創造―

坂出・綾歌支部英語部会

1　研究主題について

グローバル社会において、英語によるコミュニケーションが生涯にわたり様々な場面で必要とされることが想定される中で、その能力の向上が課題となっている。英語でコミュニケーションを図る資質や能力を育てるために、生徒の主体的・対話的で深い学びを基盤として、さらなる表現力を育成できるような表現活動の充実が求められている。

そこで本部会では、これまでの研究を土台として、学習指導要領の趣旨に沿った授業の展開・工夫を行い、グローバル社会に求められる英語教育の在り方について研究を進めることとした。

2　研究の進め方

(1)　研究授業・研究討議、日々の授業実践を通して研究主題に迫る。

(2)　研究の過程

①　４月２５日　（坂出市立坂出中学校）
研究組織及び研究主題の決定、研究の進め方についての共通理解

②　６月　７日　（香川大学教育学部附属坂出中学校）
研究授業及び授業討議

③　９月３０日　（坂出市立白峰中学校）
研究授業及び授業討議

3　研究と実践

(1)　研究授業１（６月７日）

①　題　材　　ＦＳＪツアーズ　　― Plan a trip in Kagawa! ―
授業者　　香川大学教育学部附属坂出中学校　第２学年２組　教諭　石田　吏沙

②　本時の学習目標

・　既習事項を活用し、丸亀城について伝えることができる。
・　ＡＬＴや級友とのやりとりを通して、相手に伝えるために大切なことに気付き、自身のプレゼンテーションの練り直しに生かすことができる。

③　学習内容及び学習活動

ア　教師と対話して本時の学習の見通しを立てる。
イ　ＡＬＴとのやり取りを通して、伝えたいことが伝わるかどうかを確認する。
ウ　丸亀城の「天守」のような言葉をどのように伝えるか、グループで考える。
エ　プレゼンを練り直し、ＡＬＴと再度やり取りをする。
オ　本時の学びについて振り返る。

④　討議内容

「自分が伝えたいことを伝えられない」から始まり、探究的な学びや他者との協働を通して「既習事項を活用することで、工夫次第で、自分が伝えたいことを伝えることができる」という学びへの変容がみられる授業であった。ＡＬＴとの入念な準備や適切なテーマ設定により、生徒の「伝えたい」という気持ちを高めることにつながった。また、振り返りの言葉から次の授業の課題づくりに生かすことで、生徒が表現活動への意欲を継続できていると感じられた。

⑵　研究授業２（９月３０日）

①　題　材　　Program4　Let's Enjoy Japanese Culture

授業者　　坂出市立白峰中学校　第１学年２組　教諭　三ツ石　真弓

②　本時の学習目標

これまでに学習した表現を用いて、文の構成を意識しながら、日本のお土産のよさやその理由について、英語で書いたり話したりすることができる。

③　学習内容及び学習活動

ア　ＡＬＴとの問答を通して、日本のお土産を伝えようという意欲をもつ。

イ　日本のお土産について、前時までに作文した内容をグループで伝え合う。

ウ　さらに情報をつけ加え、内容を班で吟味する。

エ　グループごとにＡＬＴに向けて発表し、質問に答える。

オ　本時の学習について振り返る。

④　討議内容

教材や言語活動時の役割分担、課題設定といった学ぶ環境を整えたことにより、生徒はスムーズに学習することができた。「ＡＬＴにお土産について伝えたい」という必要感を示しながらも、ある程度発表の型を提示することで英語を苦手とする生徒を含め、全ての生徒に役割を与えることができた。各グループの発表をもとに改善された点を共有するなど、その場でフィードバックをすることが有効である等、建設的な討議となった。

４　今後の課題

研究授業ではどちらも、コミュニケーションを積極的に図ろうとする生徒の姿が見られた。英語力に差はあるが、適切に学習課題や学習環境を整えることで、生徒の主体性を引きだすことができることが分かった。また、作文した原稿の保存や再利用、言語材料を調べる時など、必要に応じてＩＣＴ機器が効果的に活用されていた。

一方で、指導と評価の一体化の視点において、これからも研究を進めていく必要がある。授業中の活動をどのような基準・規準で見取っていくか、限られた授業時間の中でどのように評価するかなど、入念な事前準備が必要になると考えられる。

また、来年度の教科書改訂に伴い、Retell の活動への取り組み方について議論がなされた。どの中学校もRetell の活動に十分な時間をあてることができていない現状があり、その指導方法に関しても研究を進め、共有していくことが求められる。

【附属坂出中学校での授業の様子】

【白峰中学校での授業の様子】

＝各支部研究発表＝

グローバル社会に求められる英語教育の在り方

～主体的・対話的で深い学びを実現する英語授業の創造～

丸亀支部英語部会

1　はじめに

英語部会では上記の研究主題のもと、英語で情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするなど、他者とのコミュニケーションを図る資質・能力を育てることが課題となっている。そこで、生徒が主体的に英語を学ぶことができるような授業の改善・工夫を行い、グローバル社会に求められる英語教育のあり方について研究を行ってきた。

2　研究の経過

丸亀市中学校総合教育研究会の際には各校の先生方による研修を行った。

（1）丸亀市中学校総合教育研究会　10月23日水曜日（丸亀市立西中学校）

・英語部会　研究授業・授業討議

指導者　香川大学教育学部附属坂出中学校　石田　吏沙　先生

3　授業実践

（1）授業者　丸亀市立西中学校　JTE　大谷　彩子　　ALT　Daniel John Allen

（2）指導者　香川大学教育学部附属坂出中学校　石田　吏沙　先生

（3）題　材　Power-up 3　レストランで食事をしよう

（4）目　標　・レストランでの会話に必要な新出単語や基本表現を理解し、ペアでパターンプラクティスをすることができる。

・教科書の異なる状況に応じた表現方法を用いて会話の幅を広げつつ自信をもってロールプレイをすることができる。

【やり取りを練習】

（5）授業における工夫点

・ロイロノートを活用し、前時に学習した対話文クイズを行ったり、資料を配布したり、会話文を録音したりすることで生徒の意欲を掻き立てることができた。

・実際に外国で使われているメニューを提示することで異なる食文化にも触れつつ、生徒の好奇心を高めながら深い学びに導くことができた。

【ロイロでのクイズ】

（6）指導・助言

・生徒自身が積極的に活動に取り組んでいた。

・音読活動が多様で生徒たちが飽きることなく音読練習できていた。

・ジャンプ課題では、前で発表していた生徒たちがジェスチャー付きで生き生きと活動できていた。

・生徒がしたいことを教師が止めず、先に指示をしてから絵を見せると良い。

・より音読活動を充実させるためには、遊んでいると思わせながら学ばせる工夫をしなければならない。ALTとのやり取りの中で困ったときに対応する力を付けさせたい。

・読むことができないメニューは生徒からどのように発音するのかという質問があるまで待つ。

・ロイロノートで録音したペアでの会話文は自分が録音したものを聞きなおしたり全体で共有したりする時間が必要である。また、録画してジェスチャーを含めて評価したい。

（7）学習指導過程

学習内容	教師の指導と支援活動	形態
1　スモールトークを聞いて内容を理解した後、即興でやり取りをする。	・ALT によるスモールトークでオーストラリアのレストランについて話を聞きとらせる。	全体 ペア
（学習課題１）オーストラリアのレストランで自分の好きなものを注文しよう。		
2　前時の復習をする。	・デジタル教科書を使い、発音と意味を確認させる。	全体
（1）新出語句の確認をする。	・ロイロノートで対話文クイズをさせる。 ・暗唱を意識させ、できるだけ文字を見ずに音読をさせる。	ペア 全体
（2）前時に学習した基本の対話文を復習する。	・全体音読、ペア音読などを繰り返して基本の対話文を定着させる。	ペア
3　教科書の活動をする。 （1）異なる状況での対話文を考える。	・教科書にある３つの異なる状況を確認させる。 ・Expression Box の中の表現を含む対話作りに役立つ表現を板書して、確認させる。 ・メニュー①から注文したいものを選んで対話文を考える。	全体 個人
（2）ロールプレイの練習をする。	・メニュー①で考えた対話文を使い、ペアでロールプレイをさせる。 ・スムーズに対話ができるように練習させる。 ・ALT と教師は机間指導で発音やアイコンタクトなどアドバイスをする。	 ペア
（3）タブレットで会話文を録音する。	・ロイロノートに録音したものを再生して改善点を話し合い、より自然な対話になるよう考えさせる。 ・ALT と教師は机間指導で改善点などをアドバイスする。 ・一番良いものを提出箱に提出させる。 ・全体で共有し、称賛する。	ペア 個人
（学習課題２）ALT の先生とロールプレイに挑戦しよう。		
4　チャレンジ活動をする。 （1）メニュー②を見て自分の注文したいものを考える。	・メニュー②を見て、自分の注文したいものや質問したいことなどを考えさせる。	全体
（2）ALT とのロールプレイに挑戦する。	・挑戦してみたい人を挙手させて、ALT とのロールプレイにチャレンジさせる。	個人
5　本時の学習を振り返る。	・気づいたことやできるようになったことを具体的に書くように促す。	

4　今後の課題

本年度の公開授業では、生徒の興味・関心に合った学習課題が設定され、ICT を活用して生徒が主体的に活動に工夫がされていた。タブレットでワークシートを配布したり、会話を録音したりして、効果的に ICT を活用できていた。録音したやりとりの評価の仕方についても研究を重ね、より対話的で深い学びとなる授業を目指していきたい。

＝各支部研究発表＝

「グローバル社会に求められる英語教育の在り方」
～表現力の育成をめざした英語授業の創造～

仲多度・善通寺支部英語部会

1　研究主題について

仲多度・善通寺支部では、県の研究主題を受けて、「グローバル社会に求められる英語教育の在り方－表現力の育成をめざした英語授業の創造－」をテーマとして研究に取り組んだ。

グローバル社会を生き抜く人材の育成に向けて、よりアウトプットを意識した授業実践に向けて研究を進めた。

2　研究の内容

(1) 香中研仲多度・善通寺支部総会

① 日　時　令和６年５月１日（水）
② 会　場　多度津町立多度津中学校
③ 内　容
　ア　役員改選、研究組織の決定
　イ　研究主題、研究の進め方の決定
　ウ　年間計画の立案

(2) 教科代表の研究授業

① 日　時　令和６年６月14日（金）
② 会　場　善通寺東中学校
③ 内　容　研究授業
　授業者　教諭　香川　将輝
　　外国語指導助手　Antonio Alvin
④ 題　材　Unit2
　　Food Travels around the World
　　(New Horizon English Course 2)
⑤ 目　標　接続詞の文構造・意味・用法を理解し、それらを用いて、おすすめの店を紹介することができる。
⑥ 授業における工夫点
・　ペアやグループ活動に意欲的に取り組んでいる生徒に対して、「+αカード」を活用し、称賛する。
・　苦手意識のある生徒に興味をもたせるために、デジタル教科書、映像教材や写真などを活用して導入を工夫する。
・　接続詞を用いて文章を書くことができるように、身近な場面を設定するとともに語順の確認をする。
・　支援が必要な生徒には、参考文などを電子黒板やホワイトボードに表示するなど視覚的支援を行う。

(3) 郡市香中研夏季研修会

① 日　時　令和６年７月26日（金）
② 会　場　まんのう町立満濃中学校
③ 内　容　授業研究のための討議
④ テーマ　表現力の育成
⑤ 実践事例
　ア　Small Talk の実施
　　・Q&A のペア活動
　　・WEG（Word Explaining Game）
　　・しゃべろうブック
　イ　パフォーマンステストの実施
　　・ALT とのインタビューテスト
　　・プレゼンテーション
　　・音読（ロイロノートの録音機能使用）
　ウ　オンライン英会話
　エ　表現活動
　　・スピーチ発表
　　・英作文
　　・ペアでのスキットづくり

(4) 研究討議

① 日　時　令和６年10月11日（金）
② 会　場　多度津町立多度津中学校
③ 内　容　外国語指導助手による発表
　　フォニックスの指導について
　　意見交換

【教科研究員の研究授業指導案】

	学習内容及び学習活動	予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	1　料理クイズをする。	・　これは何だろう。 ・　外国の料理かな。	・　英語を使う雰囲気を作るため、正解者には＋αカードを与える。
	〈学習課題〉アルビン先生におすすめの店を紹介しよう。		
展開	2　モデル文を確認する。 (1)　アルビン先生のおすすめの店を聞く。 (2)　文法事項について復習する。	・　何を言ってるんだろう。 ・　そんなお店があるんだ。 ・　おいしそう。 ・　接続詞は when, if, because, that だ。	・　支援が必要な生徒のため　にアルビン先生が作成した文章を掲示する。 ・　接続詞の意味を確認する。
	3　おすすめの店を紹介する。 (1)　ペアで紹介するお店を考える。 (2)　ペアでマッピングを見ながら、ワークシートに接続詞を使って紹介文を書く。	・　どこにしようか。 ・　おすすめの店は〇〇だよ。 ・　難しいな。 ・　この単語ってどう書くんだっけ？	・　タブレットを使って、情報を探す。 ・　苦手な生徒のために生徒同士で教え合ったり、机間指導で助言したりする。 ・　ワークシートに使用できそうな表現を hint box として示す。 ・　英語で文章が書けない生徒に「タブレットで調べてみよう」など助言する。
	(3)　紹介文をロイロノートで提出する。	・　おすすめの店のことを書けたから提出しよう。 ・　接続詞の使い方はあってるかな。	・　参考となる表現などを全体で共有する。 ・　ペアで協力しながら熱心にできている生徒に＋αカードを与える。 （共感的人間関係）
	(4)　完成版を再提出し、全体で発表する。	・　よし、できたぞ。 ・　単語が間違ってたから、書き直そう。	・　ALT が生徒の紹介文を添削する。 ・　次時のためにもう一人の紹介文を書かせる。
まとめ	4　本時の学習を振り返る。	・　接続詞を使って、協力して書けた。 ・　お店以外について薦められるようにしたい。	・　接続詞の語順を確認する。

3　成果と課題

本年度は表現活動の充実を図り、よりアウトプットを意識した授業実践を行った。Small Talk や WEG などの帯活動を通して、相手に伝えることを意識して取り組む態度が育ってきた半面、即興性を伴う活動には、基礎知識の定着に時間をかける必要があるにも関わらず、その時間の捻出が難しいことや、プレゼンテーションをグループで行った際の評価が難しいことに課題が残った。今後、表現活動に効果的かつ効率よく結び付けていく授業計画やグループ活動での評価の仕方を検討していきたい。

＝各支部研究発表＝

「グローバル社会に求められる英語教育の在り方」

―表現力の育成をめざした英語授業の創造―

三豊・観音寺支部英語部会

1　研究主題について

三豊・観音寺支部では、県の研究主題を受け、「グローバル社会に求められる英語教育の在り方」を研究主題とし、サブテーマを「表現力の育成をめざした英語授業の創造」とした。研修を通して積極的に授業改善を図っていきたいと考え、先進的な取り組みを行っている講師を招いてワークショップを実施した。また、ICT機器、デジタル教科書（BLUE SKY版）等の活用の仕方、評価についての研究を進めた。

2　研究の経過

5月1日（水）三観中研一斉研修会
（豊中町農村環境改善センター）

・組織、研究主題の決定
・研究計画立案

7月26日（金）三観中研夏季研修会
（観音寺市立中部中学校）

・「ICTを活用したパフォーマンステスト」
・「ICTの効果的な活用について」
講師　木内　祐希　先生
（県立高松北中学校）
・異文化理解セミナー
講師　Knikkoliev Ivan Seebaran 先生
Sven Rutger Sugars　先生

10月24日（木）
三観中研理事・主任研修会
（豊中町農村環境改善センター）

・地区英語弁論・暗唱大会の反省
・各校の研究：中間報告

1月16日（木）三観中研理事・主任研修会
（豊中町農村環境改善センター）

・各校研究成果の発表
・本年度の反省
・次年度構想

3　研究と実践

（1）三観地区夏季研修

①　日時　令和6年7月26日（金）
②　場所　観音寺市立中部中学校
③　講和　「ICTの効果的活用
～「私だけの授業」のために～」
講師　木内　祐希　先生
（県立高松北中学校）

【ICT活用のキーワードと活用事例】

〔1〕ユニバーサルデザイン：あらゆる学習者にわかりやすく、やさしい。視覚的補助にもなる。
〔2〕タイムパフォーマンスがいい：時間と労力、資源を節約する。（QRコード作成は非常に便利）
〔3〕教材が再利用可能：何度も繰り返して学び利用することができる。
〔4〕個別最適な学びの実現：自分の学びたいものを、自分のペースで、じっくりできるまで行う。
〔5〕協働的な学びの実現：他者と学ぶ、他物から学ぶ。
〔6〕学びの蓄積が可能：Can-Do List、ポートフォリオ、英作文を随時ブラッシュアップできる。

≪おすすめのアプリ等≫
Googleフォーム、スプレッドシート、ふきだしくん、Padlet　他

④　講和　「異文化理解セミナー①」
講師　Knikkoliev Ivan Seebaran　先生
【自国（トリニダード・トバゴ）と日本との違いについて】
・面積：四国の半分ほど
・人種：ネイティブ＋他民族など多様
・音楽：steel panと呼ばれる楽器を叩き、独特な音楽を奏でる　など

⑤　講和　「異文化理解セミナー②」

講師　Sven Rutger Sugars　先生

【自国(オランダ)と日本との違いについて】

・面積：九州と同じほど

・教育：elementary school　8年間

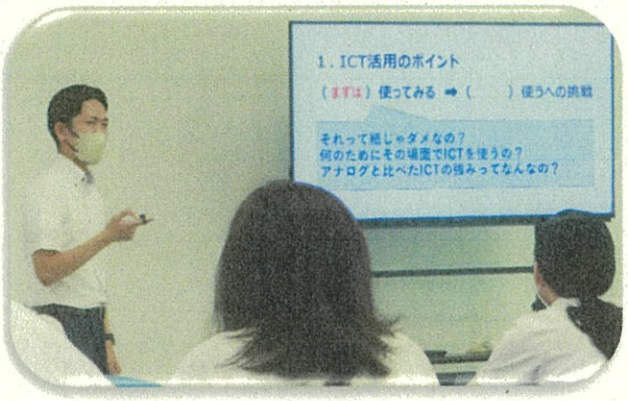
→high school　4年間

(レベルが1から3に分かれている)

入学試験はなく、卒業試験が存在する。

留年制度もある。

部活動という概念はない。



4　成果と課題

今年度は、三観地区夏季研修会を開催するにあたり、部員から研修内容の希望をとり、希望に沿った研修を行うことができた。各校による ICT を活用したパフォーマンステストの実践報告を聞くことで、新たな知見を得ることができた。また、そこで得た研修成果を各校に持ち帰り、授業改善につなぐことができた。若年教員の増加に伴い、ICT 活用の拡充を実感できる研修が、互いに刺激を与えるよい機会となった。

木内先生の授業実践では、昨年度教えていただいた内容に加え、何のためにＩＣＴを活用するのか、また、どのようなアプリケーションを使うことで、効果的に授業を進めていくことができるのかなどを知ることができた。現在、生徒一人ひとりに端末が支給されており、デジタル教科書を積極的に使い、予習や復習、教科書の内容等について理解を深めることができる。部員一同にとって、日々の授業を振り返る大きなきっかけとなった。

これから個別最適化の学習を目指すうえで、ますます教師がＩＣＴ教育に関する技術を磨いていくことと、生徒自身が積極的にＩＣＴ機器を使っていくことが重要になってくる。この研修を通して、学習したことを臆せず授業に取り入れ、進めていくことが必要となってくるだろう。

＝各支部事業報告＝

小　豆　郡

１．研究主題

グローバル社会に求められる英語教育の在り方
～表現力の育成をめざした英語授業の創造～

２．研究の概要

（１）香中研小豆支部総会
　○４月１８日（木）土庄中学校
　・役員の選出
　・研究主題の設定
　・年間研究計画の決定

（２）香中研小豆支部英語部会研修会
　○６月１３日（木）土庄中学校
　・研究授業
　【題　材】Our Project 1 あなたの知らない私
　　(SUNSHINE ENGLISH COURSE 1)
　【授業者】藤井　悠輔　教諭（土庄中）
　・授業討議

（３）小豆郡中学校英語弁論大会
　○９月１９日（木）土庄中学校

（４）香中研小豆支部英語部会研修会
　○１１月１９日（火）小豆島中学校
　・研究授業Ⅰ
　【題　材】Power Up 3 レストランで食事をしよう
　　(SUNSHINE ENGLISH COURSE 2)
　【授業者】森下ひなた　教諭（小豆島中）
　・研究授業Ⅱ
　【題　材】PROGRAM 6　Live Life in True Harmony
　　(SUNSHINE ENGLISH COURSE 2)
　【授業者】渡邊　友明　教諭（小豆島中）
　・授業討議
　・来年度研究計画や研修会等の内容検討

＝各支部事業報告＝

さぬき市・東かがわ市

１．研究主題

「グローバル社会に求められる英語教育の在り方」

―さらなる表現力の育成を目指した英語授業の創造―

２．研究の概要

(1)　香中研さぬき・東かがわ支部総会

○４月 26 日（金）さぬき南中学校

・研究主題の設定

・研究組織づくり

・研究計画

(2)　香中研さぬき・東かがわ支部教科研究会

○５月３０日（木）長尾中学校

・研究授業

・授業者　教諭　田中　由佳

ALT　Mitchell Kissack

・討議

(3)　香中研さぬき・東かがわ支部中学校英語弁論大会

○９月１２日（木）大川中学校

(4)　香中研さぬき・東かがわ支部教科研究会

○９月１３日（金）引田中学校

・研究授業

・授業者　教諭　井上　知佳

ALT　Josha Nares

・討議

高松市・三木町・直島町

1　研究主題

「グローバル社会に求められる英語教育の在り方」
－表現力の育成をめざした英語授業の創造－

2　研究の概要

(1) 第１回主任役員研修会
○４月２４日（水）高松市立香東中学校
・役員の選出と研究組織づくり
・令和５年度事業報告・会計報告
・令和６年度事業計画・予算案

(2) 第２回主任役員研修会
○６月１８日（火）高松市立香東中学校
・令和６年度研究推進について
・英語弁論大会について
・提案授業について
・理事会報告

(3) 香中研高松支部英語部会夏季研修会
○今年度は中止

(4) 第１７回高松地区英語弁論大会
○９月１４日（土）に各ブロックで実施
◇高松北ブロック　レクザムホール大会議室
・参加者　暗唱の部１０名　弁論の部１２名
・審査員　尾平　　真　氏
（香川県立高松高等学校教頭）
Keyon Talieh　氏
（高松市立香川第一中学校 ALT）
・入賞者【暗唱の部】
○西崎　心凪（紫雲）
杉　那々子（直島）
黒木　莉那（古高松）
【弁論の部】
○森　　歩実（桜町）
○山中　萌波（直島）
野田　晏莉（玉藻）

◇高松南ブロック　香川県立文書館
・参加者　暗唱の部８名 弁論の部１０名
・審査員　田下　伸二　氏
（高松高等予備校講師）
Sheila Ndlovu　氏
（高松市立勝賀中学校 ALT）
・入賞者【暗唱の部】
○鎌倉ゆきの（三木）
佐々木　遥（山田）
横山　　蓮（木太）
【弁論の部】
○桑村　　凜（附属高松）
○梶村　莉梨（香東）
○立川　　桃（附属高松）
※ ○は県大会出場者

(5) 第３回主任役員研修会
○９月２０日（金）高松市立香東中学校
・英語弁論大会を振り返り
・研究組織や研究推進、内容についての討議
・情報交換

(6) 研究授業
○１１月２０日（水）
会　場　高松市立龍雲中学校
授業者　久保　孝彰　教諭

(7) 第４回主任役員研修会
○１１月２６日（火）高松市立香東中学校
・高松市教育委員会　学校教育課
篠原　明子　指導主事による講話

(8) 第５回主任役員研修会
○２月１８日（火）　高松市立香東中学校
・令和６年度事業報告
・令和７年度事業計画

坂出市・綾歌郡

１．研究主題

「グローバル社会に求められる英語教育の在り方」
～さらなる表現力の育成を目指した英語授業の創造～

２．研究の概要

(1) ４月 25 日（木）　坂綾中研英語部会（坂出中）

○　研究主題・組織の決定、研究の進め方についての共通理解

(2) ６月７日（金）　坂綾中研英語部会（附属坂出中）

○　研究授業〔第２学年〕

・授業者　　教諭　石田　吏沙　氏

・題　材　　「FSJ ツアーズ -Plan a trip in Kagawa!-」

○　討議内容

・研究授業について

・各校の実践報告

(3) ９月 30 日（月）　坂綾中研英語部会（白峰中）

○　研究授業〔第１学年〕

・授業者　　教諭　三ツ石　真弓　氏

・題　材　　Program4「Let’s Enjoy Japanese Culture」

○　討議内容

・研究授業について

・各校の実践報告

・今後の研究の進め方について

(4) 12 月　研究紀要の作成

(5) ３月　研究紀要の発行

＝各支部事業報告＝

丸亀市

１．研究主題

「グローバル社会に求められる英語教育の在り方」

－主体的・対話的で深い学びを実現する英語の授業の創造－

２．研究の概要

(1)　５月２日（木）（飯山中）

○丸亀市中学校教育研究会総会

・役員改選・研究組織決定・年間計画

(2)　７月 26（金）（飯山中）

○丸亀市中学校夏季教育研究会

・市弁論大会打ち合わせ

・総研に向けて帯活動の具体的な実践例について情報交換

・来年度から導入されるオンライン英会話について実践校からの報告及び質気応答

・県外先進校の視察報告

(3)　９月９日（月）（丸亀市市民交流センターマルタス）

○丸亀市中学校英語弁論大会

(4)　10 月 23 日（水）（西中）

○丸亀市中学校総合教育研究会

・研究授業　第２学年８組

・題　材　Power-Up 3 レストランで食事をしよう（SUNSHINE ENGLISH COURSE 2）

・授業者　教諭　大谷　彩子

ALT　Daniel John Allen

・指導者　石田　吏沙　先生

（香川大学教育学部付属坂出中学校　教諭）

(5)　１２月４日（水）（丸亀東中）

○丸亀市中学校教育研究会

・今年度の研究のまとめ

・来年度から実施予定の「オンライン英会話」

についての情報交換

・ALT２人配置の授業実践例

仲多度郡・善通寺市

１．研究主題

「グローバル社会に求められる英語教育の在り方」
～表現力の育成をめざした英語授業の創造～

２．研究の概要

(1) 香中研仲多度・善通寺支部総会

○５月１日（水）多度津町立多度津中学校

・研究主題、研究組織の決定

・主な研究事項の検討

(2) 教科研究会

○６月 14 日（金）善通寺市立東中学校

・授業者　教諭　香川　将輝

外国語指導助手　Antonio Alvin

・題　材　Unit2

Food Travels around the World

(New Horizon English Course 2)

(3) 郡市香中研夏季研修会

○７月 26 日（金）まんのう町立満濃中学校

・表現力の育成を目的とした授業実践の報告

(4) 仲多度郡・善通寺市中学校英語弁論大会

○９月 24 日（火）善通寺市民会館

・参加者　暗唱の部９名　弁論の部４名

・県大会出場者

暗唱の部　尾嵜　湖珀

(琴平町立琴平中学校)

弁論の部　高田　姫愛乃

(琴平町立琴平中学校)

(5) 研究討議

○10 月 11 日（金）多度津町立多度津中学校

・外国語指導助手による発表

・フォニックスの指導について

・意見交換

三豊市・観音寺市

1．研究主題

「グローバル社会に求められる英語教育の在り方」
—表現力の育成をめざした英語授業の創造—

2．研究の概要

（1）5月1日（水）三観中研一斉研修会（豊中町農村環境改善センター）
- 組織、研究主題の決定
- 研究計画立案

（2）7月26日（金）三観中研夏季研修会（観音寺市立中部中学校）
- 「ICTを活用したパフォーマンステスト」
- 「ICTの効果的な活用について」
  講師　木内　祐希　先生（県立高松北中学校）
- 異文化理解セミナー
  講師　Knikkoliev Ivan Seebaran 先生
  　　Sven Rutger Sugars　　先生

（3）9月10日（火）三観地区英語弁論・暗唱大会
県大会出場者
弁論の部　山本　彩紗（三豊中）
弁論の部　組橋　埜乃（詫間中）
暗唱の部　田岡なるみ（高瀬中）

（4）10月24日（木）三観中研理事・主任研修会（豊中町農村環境改善センター）
- 地区英語弁論・暗唱大会の反省
- 各校の研究：中間報告

（5）1月16日（木）三観中研理事・主任研修会（豊中町農村環境改善センター）
- 各校の研究成果の発表
- 本年度の反省
- 次年度構想

令和６年度　香川県中学校教育研究会英語部会　事業概要

１　理事会

(1)　第１回　令和６年５月 19 日（日）　会場：高松シティホテル
　①　令和６年度事業計画について
　②　決算報告・予算案審議
　③　支部研究発表費予算案について
　④　中英香川第 61 号編集について

(2)　第２回　令和６年６月 15 日（土）
　※　本年度中止

(3)　第３回　令和６年 11 月 23 日（土）
　※　本年度中止

(4)　第４回　令和７年２月８日（土）　会場：高松シティホテル
　①　今年度の反省
　②　次年度事業計画について
　③　各支部理事への申し送り

２　香川県中学校教育研究会英語部会夏季研修会

期日　令和６年７月 30 日（火）
会場　丸亀市綾歌総合文化会館アイレックス
内容　①　講演・ワークショップ
　　演題　「今求められる英語教育　～表現力育成のための授業構築の在り方～」
　　講師　大阪城南女子短期大学　学長　菅　正隆　先生
　　②　講評・指導
　　香川県教育委員会事務局義務教育課　主任指導主事　眞鍋　容子　先生

３　香川県中学校教育研究会英語若年研修

○若年研修Ⅰ
期日　令和６年９月 30 日（月）
会場　坂出市立白峰中学校
内容　授業参観、研究討議、ワークショップ
　　授業者　三ツ石　真弓　先生
　　題　材　SUNSHINE ENGLISH COURSE 1
　　PROGRAM 4　Let's Enjoy Japanese Culture.

○若年研修Ⅱ
期日　令和６年 12 月 12 日（木）
会場　香川大学教育学部附属坂出中学校
内容　授業参観、研究討議、ワークショップ
　　授業者　石田　吏沙　先生
　　題　材　SUNSHINE ENGLISH COURSE 1
　　Our Project 2　この人を知っていますか

４　機関誌「中英香川 61 号」発行